

平成27年度第1回 函館市企業局経営懇話会 会議録

【開催日時】 平成27年7月27日（月） 14時30分

【開催場所】 函館市企業局庁舎4階大会議室（アクロス十字街）

【次第】

- 1 開 会
- 2 企業局長あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 企業局管理職紹介
- 5 報告・説明事項
 - (1) 平成26年度企業局各会計決算（見込み）について
- 6 議 事
 - (1) 函館市交通事業経営計画（第2次）の進行管理について
- 7 閉 会

【出欠状況】

■委員（出席13名）

（○は出席，敬称略）

所 属 団 体	氏 名	出 欠	所 属 団 体	氏 名	出 欠
公立はこだて未来大学	木村 健一	○	函館市戸井地域審議会	松田 正志	○
財団法人函館地域産業振興財団	三浦 汀介	○	函館商工会議所	矢野 一英	
北海道税理士会函館支部	川田 博仁	○	函館水産連合協議会	吉村健太郎	○
北海道電力株式会社函館支店	濱谷 将人	○	函館地区バス協会	工藤 利夫	○
函館市社会福祉協議会	佐藤 秀臣	○	函館湯の川温泉旅館協同組合	河内 孝善	○
函館市町会連合会	深瀬 晃一	○	一般公募	寺尾 豊光	
函館消費者協会	森元 浩	○	一般公募	山本 秀治	○
連合北海道函館地区連合会	八木橋正典	○			

■事務局（出席22名）

川越企業局長

- ・ 管理部 渡辺部長，松浦次長，金野総務課長，清本経営企画課長，中村経理課長，島村料金課長，川井管理部参事
- ・ 上下水道部 鶴巻部長，加保次長，米田管路整備室長，加地業務課長，船山管路整備室参事，濱坂管路整備室参事，萬年管路整備室参事，川村浄水課長，高清水終末処理場長，佐藤東部営業所長
- ・ 交通部 田畑部長，高坂次長，岩田事業課長，廣瀬施設課長

1 開 会

2 企業局長 あいさつ

川越局長

皆様こんにちは。企業局長の川越でございます。私、5月23日付けで企業局長に就任いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日の、この経営懇話会の開会にあたりまして、一言ご挨拶をさせていただきます。

委員の皆様方におかれましては、大変お忙しい中、本日の会議にご参集いただきまして、誠にありがとうございます。

また、日頃から当市の企業局の事業はもとより、市政各般に渡りまして格別なるご理解とご協力をいただいておりますことに、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。どうもありがとうございます。

昨日、一昨日と、函館アリーナのこけら落としでGLAYがライブ公演を行って下さいまして、沢山の皆様においでいただいたわけでありませけれども、当局が運営をいたします市電についても大変多くの方が会場までの移動手段としてご利用いただいたところでもあります。

また、来年3月には北海道新幹線が開業いたします。その新幹線に乗って、この函館にお越しいただいた沢山の観光客の皆様にも、より多く市電を利用していただけるように、これから色々な取り組みを考えていかなければならないものと考えているところでもあります。

さて、当局が運営をいたします水道、公共下水道、そして交通の3つの事業につきましては、何れも市民生活や都市の健全な発展には欠かせない重要なインフラ事業であります。これらの事業の近年の状況を申し上げますと、人口の減少、そして少子高齢化の進行などによって、上下水道事業につきましては水需要の減少、そして交通事業につきましては利用者の減少ということで、収入の面でも厳しい状況になってきているところでもあります。

そして、一方では施設や設備が老朽化をしております、そうした更新の費用、さらには災害等への対応に向けた費用が増加傾向にあるといった状況でございます。

このため、各事業においては、これまで以上に健全な経営に努めまして、市民の皆様を始め利用者の皆様へ、安全で安心して、そして、満足いただけるサービスを将来に渡って安定的に提供できるような、そうした仕組みや体制をさらにしっかりと作ってまいりたいと考えているところでございます。

そのためにも各委員の皆様方におかれましては、当局の事業により一層理解を深めていただくとともに、それぞれの専門的な視点からの貴重なご意見を本日の懇話会においていただけますよう、よろしくお願い申し上げます。簡単でございますけれども、開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

3 委員紹介

(新規就任委員の紹介)

4 企業局 管理職紹介

(異動管理職の紹介)

5 報告事項

(1) 平成26年度企業局各会計決算見込みについて

<資料説明（中村経理課長）>

――― 質疑応答 ―――

川田委員

川田でございます。今の説明の中で、2点程お聞きしたいことがございます。

まず、3つの表について共通するのですが、「収益的収入及び支出」の支出の方に書かれている「減価償却費等」というところと、それから真ん中の四角の「減価償却費等 (C)」という、フローに出していると思うのですが、これの戻しの金額が3つとも合いません。どのような算定根拠で出されたのか、まずこれが1点目です。

それから2点目として、交通事業会計の「収益的収入及び支出」について、「その他特別損失 4.7 億円」というのがございます。これは、一番最初にお話いただいた会計基準の変更による退職給付引当金などによるものだという解釈でよろしいでしょうか。

以上、2点のご説明をお願いします。

中村課長

はい。経理課長からご説明致します。

まず、1点目、各会計に共通ですが、「減価償却費等」というものと、四角の中にあります「減価償却費等 (C)」という数字が合わないという内容についてですが、グラフの中の「減価償却費」につきましては、水道事業会計ですと、水道、温泉、それぞれ「減価償却費等」がございます。その中で、水道については金額が大きいものですから、このような形で大きく14.1億円と記載しておりますが、温泉等につきましては金額が少ないことから、その分を「その他」の中に入れていたということがございます。それから今回、会計基準の見直しがございます。表の中の「減価償却費等(C)」については、実際に現金の出入りの無い収入や支出といえますか、そういうものが減価償却費以外にもあり、これを全部合計した数字が「減価償却費等 (C)」という数字で、水道で言うと23.9億円ということとなっております。その中身については、このグラフから、これとこれを足すこの数字になるということでは計算できない内容になっております。

2点目の交通のグラフの中での「収益的収入及び支出」の支出で、「その他特別損失」4.7億円でございます。こちらは委員がおっしゃる通り、会計基準の見直しで退職給付引当金等が義務付けられたことによって、4.7億円のうちのほとんどが退職給付引当金であるということでございます。

以上です。

河内委員

よろしいですか。3ページの「交通事業会計」の「貸借対照表」で、未収金で9千5百万円位ありますが、この未収金とはどのようなものでしょうか。

中村課長

交通事業会計の貸借対照表上の未収金の内訳ですが、これは交通事業を行うにあたって国庫補助金等を財源としている部分がありますが、26年度の補助金で、実際にお金が入ってきたのが27年度になってからというもので、貸借対照表上、未収金という形で記載しているものでございます。

以上です。

河内委員

タイムラグがあるということでしょうか。

中村課長

はい。そうです。

清本課長

他にいかがでしょうか。

―――質問等無し―――

それでは、報告事項は以上となります。

6 議事

(1) 函館市交通事業経営計画(第2次)の進行管理について

― 事務局から作業スケジュールおよび局内評価(中間評価)について順次説明 ―

・前年度評価および前5か年の総合的な評価(中間評価)を実施→スケジュールに基づいて、中間評価に対する各委員の意見提出と次回会議での懇話会意見等のまとめについて依頼→中間評価結果について資料説明

――― 質疑応答 ―――

木村副会長

先ほどから事務局から何度か説明がありましたが、中間評価シートのNo.4の5番、「累積資金不足額の処理」「(1)計画期間を目途とする累積資金不足額の解消について」という項目がA評価ということで、これは説明がありましており一般会計からの補助があつて不良債務の解消が図られたということだと思ひます。これは、前倒して解消が図られたということですので、先ほども説明がありましたが、このことで施設改修等も、できれば積極的に計画を上回って取り組んでいくということをおこの中間評価の中でも書くべきだと考へている委員の方もいらっしゃるんじゃないかと思ひます。この辺りのことを取り組める状況にあるのかということについて、事務局にお尋ねしたいと思ひます。

清本課長

経営企画課長の清本です。

ただ今の木村副会長からのご質問ですが、累積資金不足が解消されたということお、今後の事業の展開についてどう考へているかという趣旨のお尋ねだと思ひますけれども、これまで第2次の経営計画に基づいて事業が進んできたところですが、先ほど経理課長の方から説明がありましたが、現状では累積資金不足が解消されたおと申しまして、施設の老朽化が進んでおりまして、これからは修繕・更新、これに多額の費用を要するだろうということが予想されております。また、その財源の確保についても、必ずしも楽観できるものではないというふうにお考へております。

計画策定当初と比べますと、消費税の増税ですとか、公共交通政策の検討ですとか、交通事業に与える影響あるいは事業を取り巻く環境というものも、変化してまいりました。その一方で、市の方では今年度人口ビジョンの策定などの施策も進められているところお、こういったデータも見ながら今後の施設の修繕・更新なども含めて、どのように進めていくのが良いのか、まずは局内で検討していきたいと思ひているところおございます。

以上です。

深瀬委員

各項目について、私ども意見の中で、具体的な数字の出せるもの、これについては具体的な数字を求める部分がありますから、出していただきたいと思ひます。出せない場合は出せない理由を。例えば具体的に言えば「2-(3)」の「電停ネーミングライツ」がBからC評価になっていますが、B評価の時はいくつあつて、C評価になったらいくつになったというような具体的な問に対しては数字で返して欲しい。あるいは「企業局が函バスと協働し」とありますが、これが非常に抽象的な評価なので、そういった部分を私どもは意見として具体的な内容を求めてまいりたい

と思いますので、いわゆる行政的な答弁ではなくて数字の出せるものはしっかり数字を出して答えをいただきたいと思います。また、これを言うと三浦会長に怒られるんですが、10年間、どのようにLRTの取り巻く環境が変わっても、10年は基本計画を変えないということでもよろしいんですね。最後に、これはできればということでもよろしいんですが、かつて官でバス事業をやってました。それを民に売却をしました。そうした時に、官が経営していたバス事業と民が経営していたバス事業はどういうふうに違うんだろう。これがたぶん今後、電車の事業についても、おそらくそこから学び取れるところもあるかと思いますが、ご検討いただければと思います。

三浦会長

はい、ありがとうございます。

できるだけエビデンスをつけて評価理由のところに表記するというところに心がけてくださいということで、よろしくをお願いします。

他に何か、手続き的な、事務的なことでございますでしょうか。日程とかは大体よろしいですか。

―――質問等無し―――

では、このように進めていただきたいと思います。

次回、おそらく色々な質問が盛りだくさんになるとと思いますので、皆さん、わかりやすく簡潔に質問していただいて、それに対して要領よくまとめていただいて、そして次回、議事の進行がスムーズに行くよう、よろしくお願ひしたいと思います。

手続きとしてはこのような形で、事務局の提案に沿って進めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

今日は審議するという内容ではないので、手続きをこのような形で了解することによって終わることになるとと思いますが、この会議の終了後に改めて質問等がございましたら、個別に事務局の方にお問合せしていただければ幸いと思います。その時は、事務局も丁寧に対応していただければありがたいと思います。もし他に無ければ、本日の議事は以上で終了としたいと思いますが。

では、事務局へお返しします。

清本課長

はい。三浦会長、どうもありがとうございました。

ただ今、三浦会長からもお話がございましたが、評価内容に関する質問事項につきましては、大変恐縮でございますが、8月14日金曜日までに事務局あてにご提出下さいますようお願いいたします。

また、それ以外でもご不明な点がございましたら、後ほど、事務局までご連絡下さいますようお願いいたします。

7 閉会